2014年度の漢字中級前期クラスの授業報告

―「振り返りシート」と活動評価アンケートからの考察―

中尾　菜穂

要　旨

本稿は、2013年度に続く「漢字中級前期クラス（K500）」についての報告である。2013年度は、中級への移行と自律学習を促すことを目標としたクラス活動として「学習漢字シート」「読み練習」「振り返りシート」の実施を試みた。2014年度は前年度の課題をもとにこれらの活動を継続し、その効果について、アンケートに加え、学習者の振り返りシートからも考察を行った。その結果、「読み練習」に対する学習者のニーズの高さと、「学習漢字シート」には長期的な取り組みが必要なことが示された。また「振り返りシート」には、自律学習を促す効果が期待されるが、さらに改善が必要である。

【キーワード】中級前期学習者　自律学習　「振り返りシート」「学習漢字シート」「読み練習」

A Report on the 2014 Lower-Intermediate Kanji Class : considered from self-evaluations by learners and questionnaire results

NAKAO Naho

【Abstract】This is a report on an early-intermediate Kanji Class (K500) in 2014. Following 2013, several class activities were continuously adopted with some minor changes. Self-evaluations by learners and the questionnaire results of fall semester showed that reading exercises are required by lower-intermediate learner and new Kanji-learning exercises have to be done not on a one-off basis but on a continual basis. In addition, self-evaluations by learners will be expected to promote autonomous study if some problems are resolved.

【Keywords】lower-intermediate learner, learner-centered study, self-evaluations by learners, new Kanji-learning exercises, reading exercises

１．はじめに

本稿では2013年度に引き続き、2014年度の筑波大学留学生センター日本語補講コースの漢字中級前期K500クラス（以下K500）におけるクラス活動の実践報告を行う。2013年度の筑波大学の２学期制開始に伴い、留学生センター日本語コースでもクラス編成や授業時間において多くの変更が実施された。K500においては、クラス時間の増加を利用して新しいクラス活動を取り入れ、漢字中級語彙の自律学習をめざしたクラス運営を行った（鄭・中尾2015）。

漢字学習の初級から中級への移行期にあたるK500は、従来から学習者にとって、語彙の拡充にむけて漢字学習の方法の工夫が求められる困難な時期とされる。2013年度に新たに取り入れた「学習漢字シート」「読み練習」は、学習者からの一定の評価を得た一方で、クラス活動が多かったことによると考えられる授業スピードに関するコメントもあり、これらの活動の実施回数やタイミングについては、さらに検討が必要だと考察された。また、自律学習を促す活動として取り入れた「振り返りシート」についても、より効果的に実施するための実施方法の改善が求められた。

そこで、報告者が担当する2014年度のK500-1[1]では、テキストの学習に加えて行うクラス活動として「学習漢字シート」と「読み練習」を引き継ぎつつ、その実施方法をさらにいくつか試みた。本稿ではその内容を報告し、学習者自身による「振り返りシート」と、秋学期終了時に行った授業活動についてのアンケートから、今後のK500のクラス運営の課題を考察する。

２．2014年度K500-1の概要

2013年度からの変更点を中心に、2014年度K500-1の概要を述べる。

2.1　受講者

本稿での受講者とは、履修登録者ではなく、実際にクラスに出席した学習者を指すこととする。

春学期の受講者は11名であったが、途中で１名が受講をキャンセルし、10名となった。漢字圏学習者が２名（うち韓国人学習者が１名）、非漢字圏学習者が８名で、コース開始時のレベルチェックテストでは80％以上得点した受講者が３名、90％以上得点した受講者はおらず、2013年度同様にややレベルの低い印象であった。しかし、全体の７割が日本語補講クラスでは中級にあたるJ600[2]以上に所属しており、非漢字圏学習者が団結して学習に取り組む雰囲気もあったため、出席不良による不合格者は出なかった。

秋学期の受講者は18名で、漢字圏学習者が10名（うち韓国人学習者が３名）、非漢字圏学習者が８名であった。全体の６割にあたる12名がレベルチェックテストで80％以上得点

し、70％未満はわずか２名であり、全体にレベルの高い印象のクラスだったものの、出席不良及び期末テスト欠席による不合格者が６名出た。2013年度の報告においては、K500を受講するには、非漢字圏学習者であればJ600以上、漢字圏学習者であってもJ500以上が望ましいのではないかと考察された（鄭・中尾2015）が、2014年度秋学期の出席不良者は６名のうち５名がJ600に所属しており、単純なレベル不足以外にも出席不良となる要因があることが考えられる。

表１　2014年度　K500-1受講者

	受講者	漢字圏学習者	（うち韓国人学習者）	非漢字圏学習者
春学期	計10名 →J600以上：7名 →J500：2名 →J400以下：1名 ✻出席不良：なし	2名 →J600以上：0名 →J500：0名 →J400以下：1名	（1名） →J600以上：1名 →J500：0名 →J400以下：0名	8名 →J600以上：6名 →J500：2名 →J400以下：0名
秋学期	計18名 →J600以上：10名 →J500：5名 →J400以下：1名 →教員研修：2名 ✻出席不良：6名	10名 →J600以上：5名 →J500：3名 →J400以下：1名 →教員研修：1名 ✻出席不良：2名 （J600）	（3名） →J600以上：3名 →J500：0名 →J400以下：0名 ✻出席不良：1名 （J600）	8名 →J600以上：5名 →J500：2名 →J400以下：0名 →教員研修：1名 ✻出席不良：4名 （J600、J500）

2.2　スケジュール

K500では、テキスト『Intermediate Kanji Book vol.1』（以下IKB）の１課から５課、およびその後の復習課を学習する。

2014年度春学期は、2013年度秋学期のスケジュールを引き継ぎ、全15回の授業を１課に４回、２課に３回、３～５課に各２回と振り分け、残る２回で復習課と期末テストを行った。このスケジュールの狙いは、受講者の中級における漢字学習への戸惑いを解消することにあり、はじめは様子を見ながら時間をかけて授業をすすめるが、テキストや授業の内容に慣れてきたところで徐々に速度をあげるよう設計されている。

前節に述べた通り、春学期はIKBが新出とする学習漢字およびその語彙の予習がままならない学習者が多く、授業の中で学習漢字の読み・使い方等の確認をする活動が重視された。このため、設定したスケジュールはクラスに合っていたといえる。しかし、従来から行われている「ペア読み」以外の「読み練習」を行う時間が確保できなかった。

そこで、秋学期は、１課に３回、２～５課に各２回とし、間に「１・２課復習」「３・４課復習」「５課復習」を１回ずつはさむスケジュールとした。この狙いは、予習前提をより促しつつ、学習者の様子によって、復習の回にテキストの遅れを消化するか、「学習漢字

シート」や「読み練習」などのクラス活動を組み込むかを選択できるようにした点にある。

前節に述べた通り、秋学期の受講者は全体にレベルが高く、各課の学習漢字については質問を受け付ける程度ですんだため、復習の回には「学習漢字シート」と「(長文) 読み練習」を実施することができた。また、「振り返りシート」の記入も、レベルチェックテスト後と５課終了後に加え、１・２課後と３・４課後に実施することができた。

２．３　クラス活動

IKBvol.1は、各課が「復習／基本練習／要点（学習漢字）／応用練習／課題」の各セクションに分かれているが、これを①復習→②学習漢字の確認→③要点→④基本練習→⑤応用練習という流れですすめた。①～③は各課の導入段階、④と⑤が練習段階にあたる。テキストの他に各課の宿題とクイズがあるが、宿題は導入が終わった段階である③と④の間に提出、クイズは各課をすべて終えた⑤の後に実施した。

この他に2014年度K500-1で実施したクラス活動は以下の三つである。

⑴　振り返りシート

コース開始時のレベルチェックテスト後に、試験問題の各項目についての自分の正答率を計算し、それをもとに自分の漢字力の弱点と、その克服方法について考えさせるものである。2013年度春学期には、その後各課が終わるたびにその弱点や克服方法の変化についてコメントを記入したが、秋学期ではレベルチェックテスト後と５課終了後の２回に変更した。2014年度春学期は同様にコース前とコース後のみの振り返りであったが、秋学期は１・２課後、３・４課後にも振り返りを実施し、計４回コメントを記入した。

⑵　学習漢字シート

漢字学習のストラテジーについて考えさせることを目的として、2013年度に導入したものである。漢字圏学習者は母国の漢字音、漢字語彙との違いに注目させ、非漢字圏学習者は漢字の字形および音読みに注目させて、ペアやグループでのアイディア交換を行う。

2013年度は、学習漢字の確認のために各課で実施したが、学習者が活動を理解し、慣れるまでに時間がかかることがわかった。そこで2014年度春学期は、まず学習漢字の読みと語彙の使い方を確認する練習プリントを用いて学習漢字の確認を行った。秋学期には先に述べたとおり、スケジュールを調整して時間を確保し、１・２課後および５課後の復習回で、ストラテジーを考える活動として「学習漢字シート」実施した。

⑶　読み練習

従来から実施されている「ペア読み」に加え、2013年度は発音を意識させるワープロ入力練習や穴埋めディクテーション練習を導入した。

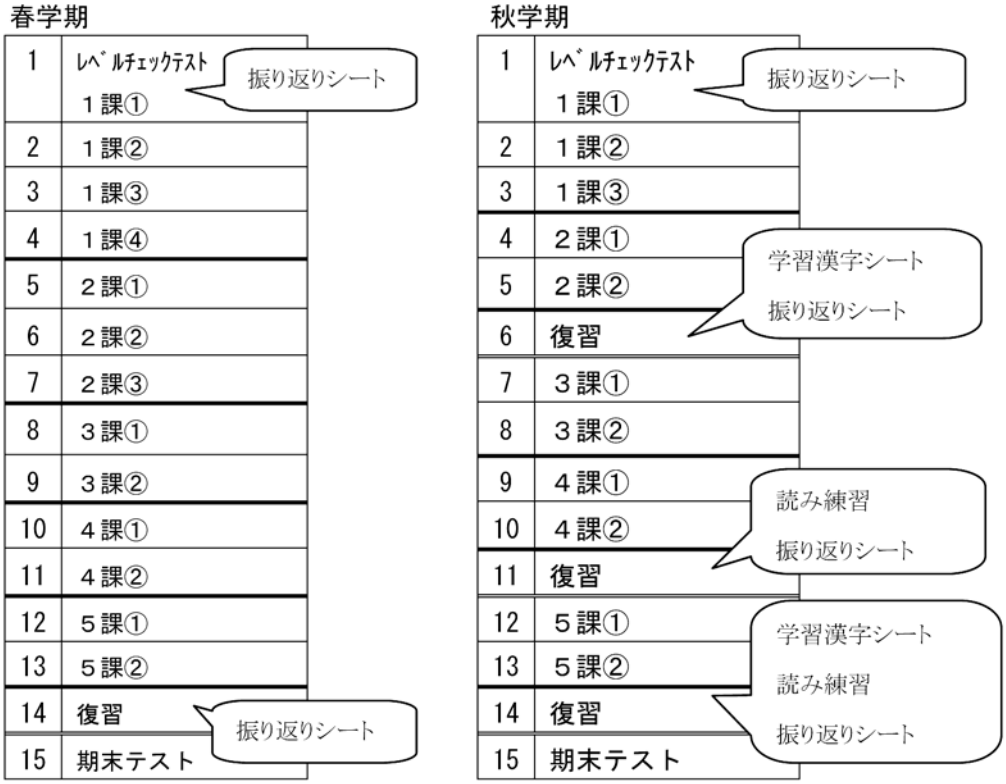
2014年度春学期は、前節に述べたとおり、これらの＋αの活動を行う余裕がなかった。そこで、秋学期には、同時に開講しているK500-2担当講師と相談の上、余裕があった場合

の活動として、「長文読み練習」を準備した。

これは、読みの復習に重点を置き、A４で１頁程度のまとまった文章を読むものである。生教材ではなく、既習の漢字や語彙を多く用いるようなテーマでK500-2担当講師が作成した。授業では、まず黙読で文章の内容が把握できるかを確認する段階と、一人ずつ音読して読みを確認する段階に分けて使用した。

以上、2014年度K500-1のスケジュールとクラス活動を表２にまとめる。

表２　2014年度　K500-1スケジュール



３．2014年度K500-1の実践報告

３．１　振り返りシート

⑴　春学期

春学期の「振り返りシート」は、コース前の「今までを振り返る」と、コース後の「K500を終えて」の２回実施した。コース前の振り返りを提出したのは７名であった。振り返りの内容は次頁の通りである（資料１）。

【資料１】今までを振り返る（2014年度春学期）

1. あなたの漢字力診断テストのグラフはどんな形でしょうか。自分で描写してみましょう。
2. 点の高い項目を、高い順に３つ書きだして見ましょう。（ただし、４点以上であること）
3. 点の低い項目を、低い順に３つ書きだして見ましょう。（ただし、３点以下であること）
4. あなたの弱点は何だと思いますか。
5. あなたの弱点を克服するために、これからどうしようと思いますか。

「漢字力診断テスト」とはコース開始時のレベルチェックテストを指す。春学期はウェブ上のTTBJ（筑波日本語テスト集）を利用した。意味・語構成・単字の字形・単字の書き等、12の項目についての正答率が示される。

これを見ながら、自分の漢字力の全体像をつかみ、弱点を克服する方法を考える。受講者の記述を見ると、１の「自分のテストのグラフはどんな形か」については、「すべてが３点以上の円」「円に近い」「円には見えない図でバランスがよくない」「熟語と品詞と読みが弱い」等、適切に把握している様子が見えた。自らの弱点については、「音読み」「書き」「使い方」の三つに分かれた。それを克服する勉強方法としては、「勉強した音読みから作られる言葉も覚えるようにしたい（使い方）」「日本語を書くとき漢字で書く（書き）」「ラジオとテレビから出る音を聞いて紙に書く（書き）」のような具体的なものがあった一方で、「ノートに書く／読むときにかきかたに注意する（音読み）」、「毎日漢字を復習する（書き）」のような漠然としたものもみられた。

コース後の振り返りは、９名が提出した。内容は以下の通りである（資料２）。

【資料２】K500を終えて（2014年度春学期）

1. 今学期を通して、あなたの弱点を知り、それを克服する練習ができましたか。
2. 今学期を通して、あなたの弱点が改善できたと思いますか。
3. あなたの弱点改善のために、授業の中で役に立った活動があれば書いてください。
4. あなたの弱点改善のために、もっとしたほうがよかったと思うことがあれば書いてください。
5. これから、漢字の勉強をどのようにしていこうと思いますか。

コメントの形式は、１及び２は「とてもそうである／そうである／まあまあそうである／あまりそうではない／ぜんぜんそうではない」の選択式、３から５は自由記述式で実施した。

「1．あなたの弱点を知り、それを克服する練習ができたか」については、「とてもそうである」が３名、「そうである」が３名、「まあまあ」が３名であったが、「2．弱点が改善できたと思うか」については、「とてもそうである」が２名、「そうである」が３名、「まあまあ」が４名であった。

また、「3．弱点改善のために役立った授業での活動（複数回答可）」については、全員

が「宿題」、うち５名が「宿題の作文」であった。「4．もっとしたほうがよかったこと（複数回答可）」は、「読む練習」が５名、「使い分けの練習」が２名、「書く練習」が２名、「作文」が１名であった。コース前に受講者があげた弱点のうち、「書き」と「使い方」については、作文の宿題である程度カバーできたものの、春学期は「読み練習」がペア読みのみで少なかったことから、読む練習への要望が高かったと考えられる。

最後に「5．これからの漢字の勉強をどのようにしていくか」については、「日本語の本を読む」「テレビを見る」「ワープロを使わず手で書く」という方法についての記述があったが、コース前のものとほぼ同じ内容であった。また、「漢字の勉強をする時間がない」「復習したいが忙しいからできるかどうかわからない」「(K400と比べて）今学期は難しかった。スピードが早く、テキストも変わって使い方もあまりわからなかった」等、学習の困難さについての記述も見られた。

⑵　秋学期

秋学期のレベルチェックテストは、TTBJではなく、ペーパーテストで実施した。これは、春学期にパソコンやインターネットのトラブルにより、最後までTTBJの結果を提出しない受講者が出たためである。このレベルチェックテスト後、「今までを振り返る」を実施した。内容は以下の通りである（資料３）。

【資料３】今までを振り返る（2014年度秋学期）

あなたの漢字力診断テストのグラフはどんな形でしょうか。グラフを見ながら考えましょう。
1. 点の高い項目を、高い順に２つ書きだして見ましょう。（ただし、８点以上であること）
2. 点の低い項目を、低い順に２つ書きだして見ましょう。（ただし、４点以下であること）
3. 12の項目の中で、できるようになりたいこと（目標）は何ですか。それはどうしてですか。
4. 目標のために、これからどうしようと思いますか。具体的な学習方法を書いてください。

秋学期は「弱点」をよりポジティブな「目標」にし、学習方法については春学期に漠然とした記述がみられたので、「具体的な学習方法」を書かせることとした。またこの振り返りシートは宿題冊子の最終頁に貼付し、指示をすればいつでも確認できるようにした。

コース前の振り返りは、出席不良者１名を含む13名が提出した。このうち８名が、できるようになりたいこと（目標）に「音読み」をあげた。テスト結果の最低点項目でなくても目標を「音読み」とする受講者もおり、受講者の音読みに対する課題意識の高さがうかがえた。次に多かったのが「書き」の５名、「文脈からの読み」が１名であった。

具体的な学習方法として、「音読み」については、「辞書でさがす」「テレビを見る」「日本語の本を読む」がみられたが、「ひらがなも一緒に書いて読む」という記述の他は音読みとどう結び付けるのかが不明確なものが多かった。音読みを課題とするものの、その克服方法についてはまだ手探りの状態である様子が伺われる。「書き」については、「手がな

れるまで書く」「ゆっくり練習する」「たくさん書く」などであった。

その後、秋学期には、１・２課終了後と３・４課終了後に、目標の再認識を目的とする振り返りを実施した。その内容は以下の通りである（資料４）。

【資料４】１・２課（３・４課）を終えて（2014年度秋学期）

1. １・２課（３・４課）を勉強する中で、あなたが決めた学習が実行できましたか。
2. できた人は、①効果があったかどうか、②これからどうするかを書いてください。
   できなかった人は、①なぜできなかったか、②これからどうするかを書いてください。
3. あなたの目標について、新しい考えがあれば書いてください。

コメントの形式は、１は「よくできた／できた／まあまあできた／あまりできなかった／ぜんぜんできなかった」の選択式、２および３は自由記述式で実施した。また、これについても、提出・講師のコメント記入後、宿題冊子の最終頁の「今までの振り返り」の上に貼付し、受講者自身もその後確認できるようにした。

２回の振り返りを通してみると、「自分が決めた学習を実行できたか」に対して「よくできた」と答えた受講者は１名による１度のみで、ほかは「できた」もしくは「まあまあ」であった。１・２課後には「効果があった」とするコメントが多く見られたが、３・４課後には効果については「できる限りでやった」「あったとしても実感できない」「専攻が忙しくて時間が足りない」等、手ごたえがなくなってくる様子が伺えた。これからの学習については、「もう少し時間をかけたい」「がんばるしかない」「あきらめないで続ける」などモチベーションに関わるコメントが多い一方で、目標についての新しい考えでは、「似ている漢字を正確に覚える」「数日後にもう一回読むと覚えやすい」「漢字の抑揚を正しく読みたい」「漢字語じゃない単語も覚えるべきだ」など、学習に内容に関わる具体的なコメントも見られるようになってきた。

コース後の振り返りは、11名が提出した。振り返りの内容は以下の通りである（資料５）。春学期に設定した授業内容についての質問は、クラス活動についてのアンケートを別に実施したため、ここには含まれていない。

【資料５】K500を終えて（2014年度秋学期）

1. 今学期を通して、自分の学習計画を考え、それを実行する練習ができましたか。
2. 今学期を通して、あなたの弱点が改善できたと思いますか。
3. あなたの弱点について、変化があれば書いてください。
4. これから、漢字の勉強をどのようにしていこうと思いますか。今学期の計画・実行、その結果をもとに、具体的に書いてください。

コメントの形式は、1は「とてもできた／できた／まあまあできた／あまりできなかった／ぜんぜんできなかった」2は「とてもそうである／そうである／まあまあ／あまりそうではない／ぜんぜんそうではない」の選択式、3および4は自由記述式で実施した。

「1．学習計画を考え、実行する練習ができたか」については、「とてもできた」はわずかに1名、「できた」7名、「まあまあ」2名、「あまり」が1名であった。「2．弱点が改善できたと思うか」については、「そうである」が6名、「まあまあ」が5名で、「とてもそうである」を選択した受講者はいなかった。春学期と比較すると、評価がやや低い結果となったが、期末テスト及び最終成績はそのとおりではない。コース前後の振り返りのみであった春学期よりも秋学期は振り返りの機会が多かったために、より深く自分の現状について内省ができた結果ではないかと考えられる。

「3．あなたの弱点について」はコース開始時には「目標」とした項目であるが、「音読みが読めるようになった」「とても改善された」などの単純に肯定的なコメントだけではなく、「学んだ漢字が増えたとともに似ている発音や形がよく間違えた」「まえよりおぼえられるようになったけど、あまり大きな変化ではないから、試験が終わったらよく復習したい」「すこしよくなったけど、クラスで英語で行うから、漢字をあまり書きません」など、コース開始時に比べるとより具体的なコメントが多かった。「4．今後の計画について」も同様に、「一番難しいのは単語選びだが、よくするためにとくべつな辞典を買ったのでそれを十分に利用してがんばります」「勉強するとき効率があまりよくない。どうしようがまだわからないができるだけ時間を調整する」「音読みを忘れないようにする、訓読みがよく覚えられるようにする、作文を書くとき漢字がよく使えるようにする」など、より具体的な内容が多く見られた。振り返りの回数を増やしたことにより、自分の学習方法について考えることに慣れてきたといえるのではないだろうか。

3．2　クラス活動の評価

秋学期にのみ実施した「学習漢字シート」「読み練習」の成果をはかる手段のひとつとして、活動評価アンケートを実施した。アンケートは2013年度の秋学期末に実施したものを土台とし、項目には「学習漢字シート」「読み練習」のほかに、授業内で実施している「要点ペアワーク」「ペア読み練習」及び「作文宿題」を加えた。内容は次頁のとおりである（資料6）。

回答の形式は、1については「5．とても役に立つ～1．全然役に立たない」の 5段階評価とし、それぞれの項目のあとに「どうしてですか」と自由記述の欄を設けた。2は自由記述式で実施した。

1.のクラス活動に関するアンケートの結果を図1に示す。

【資料６】K500での学習を振り返る（2014年度秋学期）

1. 次の授業活動は、あなたが「今後」「漢字クラス以外でも」漢字・漢字語彙を学んでいくために役に立つと思いますか。それはどうしてですか。
 ① 要点プリントとペア活動（各課ごと）
 ② ペア読み練習（各課ごと）
 ③ 作文宿題（各課ごと）
 ④ 学習漢字シート（１・２課後、５課後）
 ⑤ 長文読み練習（３・４課後、５課後）
 ⑥ 振り返りシート（レベルチェックテスト後、１・２課後、３・４課後、５課後）
2. K500の授業や授業活動について、コメント・指摘・評価・提案などがあれば、自由に書いてください。

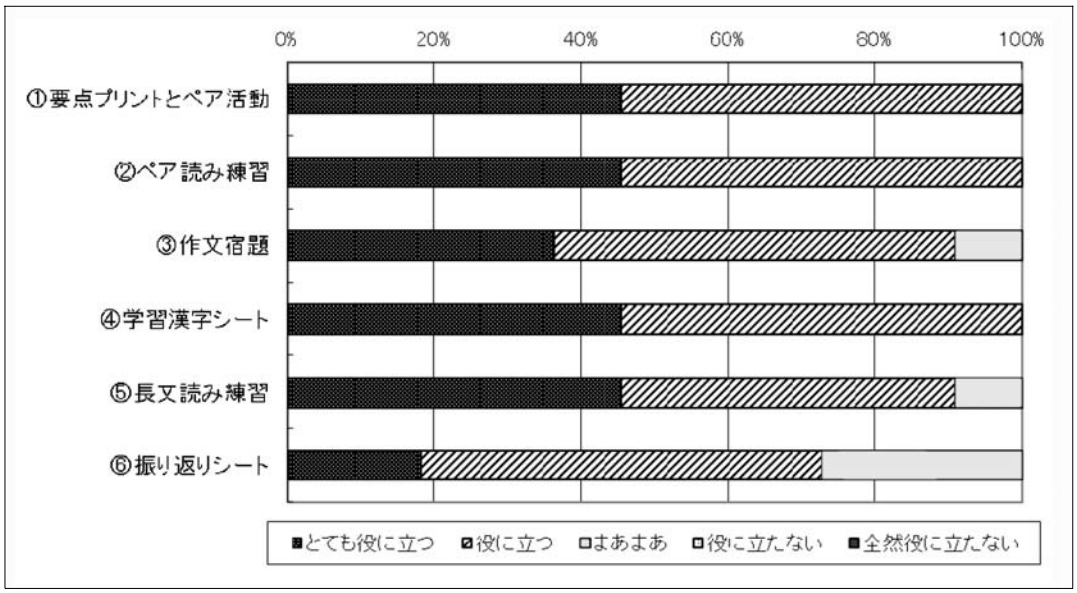


図１　アンケート結果

クラス活動の評価は、平均が高い順に、「①要点プリントとペア活動＝②ペア読み＝④学習漢字シート（平均4.5）＞⑤長文読み練習（平均4.4）＞③作文宿題（平均4.3）＞⑥振り返りシート（平均3.9）」となった。

2013年度と比較すると、最も評価が高かった宿題の作文がわずかに平均で下回り、４位となった。ただし、2013年度は同じ平均4.4で最も高い評価を得ており、作文の課題内容にも変更等はなかったため、作文の評価が下がったというよりは、他の活動の評価が上がったとみることもできる。作文について「まあまあ」を選択した受講者のコメントは、「勉強してからすぐに忘れてしまう。宿題があっても漢字をあまり書きませんので、あまり役に立たない」というものであった。

クラス活動のうち、もっとも評価が高かったものの一つである「学習漢字シート」であ

るが、コメントを見ると「必要な漢字をすぐに見つけられる」「漢字のよみかたがすぐにわかって、いいと思う」などがある。これは、漢字の形や読みについてのストラテジーを考える「学習漢字シート」の主旨とは異なっており、テキストのほかに配布されている学習漢字リストの冊子をさしていると推測される。ほかにも「おぼえていません」というコメントもあり、２回実施しただけでは、この活動は印象に残らなかった可能性も示唆された。

次に、「長文読み練習」であるが、「とても役に立つ」を選択した受講者が多かった。「もうそんなに読めるんだ！という気持ちを与え、元気が出ます」「たくさん習った漢字が出て、もう一度練習ができます」などのコメントから、読みの復習としてだけではなく、モチベーションの維持にも有効な活動であると考えられる。一方、「まあまあ」を選択した受講者は、とくにコメントを残していない。

「振り返りシート」については、2013年度同様にもっとも評価が低かった。「まあまあでも役に立ったと思う」「自分でレベルチェックができる」という肯定的評価の一方、「たった２・３週間で学習方法などが大きくかわるわけがないから」というコメントがみられた。前節に述べたように、実施回数を調整することで、振り返りの内容に発展がみられたものの、受講者自身の満足度を改善するには至らなかったといえる。

次に、授業および授業活動についての自由記述であるが、よかったこととしては、「友達と話し合うことでより効率的に勉強をすすめることができた」「読み練習やペア活動からいろいろ勉強した」があり、ペア活動が一定の評価を得ていることが示された。一方で、「テキストのほかの漢字をおぼえさせたらいい」「15回の授業で５課は少ない。授業で学べることがちょっと少なかった」「自分の作った文をみなに読んで練習してほうがいいと思う」などの要望があった。秋学期は受講者全体のレベルに余裕があり、さまざまなクラス活動を取り入れても前向きに消化できたが、物足りなかった受講者もいたと考えられる。

４．まとめ

2014年度のK500-1では、「初級から中級への移行」および「自律的漢字語彙学習の開始」を目標とした2013年度のK500のクラス運営の試みを継続した。とくに、「振り返りシート」「学習漢字シート」「読み練習」に関して、その考察を以下にまとめる。

⑴　振り返りシート

コース前後の２回のみの振り返りでは漠然とした表面的な記述が多かったが、２課ごとに計４回実施したところ、具体的な記述がみられるようになった。中級への移行に伴い、学習者自身が学習方法を模索していく上では、有効な活動であると考えられる。ただし、受講者自身が役に立つと実感できるには、さらなる改善が必要である。15週にとどまらない長期間の振り返り、学習方法を考えるだけではなくその実施をチェックできるような活

動、講師からのフィードバックに加えて定期的な受講者同士の意見交換などである。

⑵　読み練習

2013年度は入力や穴埋めなど、発音に重点を置いた練習、2014年度秋学期は音読みの確認に重点を置いた長文読み練習を実施した。読みに対する受講者の課題意識は非常に高いため、どのような形の練習であっても、前向きに受け入れられたと考えられる。個別に実施する読み練習だけではなく、さまざまな場面に読みの練習を取り入れる、ストラテジーについても意識させるといった工夫も必要であろう。

⑶　学習漢字シート

K500レベルの学習者の弱点（目標）として、「書き」も重要な課題であると考えられるが、受講者自身が考えるその対策としては「(量を）書いて覚える」というものが多かった。しかしこれは、漢字の学習時間が制限されてくる中級以降の学習者には現実的に困難な方法だと思われる。2013年度に各課で実施した「学習漢字シート」では、効率的に形を覚える方法について意識させたことにより、よい評価を得ることができたが、2014年度秋学期に２回実施しただけでは、受講者には浸透しなかった様子であった。このことから、ストラテジーを意識させるためには１度や２度の活動だけでは足りないことが示唆された。ただし、2014年度春学期のように、時間的な制約がある場合もあり、何を優先してクラス活動に取り入れていくかは、受講者のレベルやコース時間などとあわせて考える必要がある。

K500レベルの漢字クラスは、2012年度までは同じ内容を15回ではなく10回で実施しており、要点は基本的に予習とし、確認はパワーポイントを使用して少ない時間で効果的に行う（杉浦2010，加納2004）などの工夫がなされていた。また、かつてIKBを学ぶ前段階のレベルとして設定されていた「漢字Ⅱ」のクラスでは、自律学習に役立つストラテジーを訓練するための教材が使用された（加納1997）。前者は2014年度秋学期のように受講者のレベルが高い場合、後者は春学期のようにレベルがやや低い場合に参考になるクラス運営であろう。

今後も、学習方法が大きく変化する中級前期というレベルの漢字クラスにおいて、何を授業外学習とするかということも含め、クラス活動についての検討は重要であると考えられる。そのためにも、実践報告を積み重ねていくことが必要である。

注

１．補講漢字クラスについては、学習者の多様なスケジュールに対応するため、同じレベルで２つのクラスが開講されている（K500-1およびK500-2）。扱うテキストとクイズ・テストは同じだが、クラス活動等のクラス運営については担当者に任されている。

２．日本語補講クラスのレベル設定は、J100～J300（初級日本語）、J400（中級入門日本語）、

J500～J800（中上級技能別日本語）となっている。

参考文献

加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智（1993）『Intermediate Kanji Book』vol.1、凡人社

加納千恵子（1997）「初中級学習者に対する漢字指導の一試案－補講「漢字Ⅱ」クラスにおける授業報告－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』12号：139-153

加納千恵子（2004）「漢字３」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』19号：117-123

鄭聖美・中尾菜穂（2015）「2013年度の漢字中級前期クラスの授業報告－漢字語彙の自律学習を促すためのクラス運営－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』30号：281-298

杉浦千里（2010）「『Intermediate Kanji Book』を用いた漢字中級クラスのヒント」『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお出版：114-128